

令和元年6月27日

令和元年度第2回小金井市廃棄物減量等推進審議会次第

1 開 会

会議録の確認について

2 報 告

- (1) 燃やすごみの処理量の昨年度との月別の比較について
- (2) 可燃ごみ処理の支援状況について

3 議 題

- (1) 事業系可燃ごみ処理手数料の見直し等について（諮問）
- (2) 平成30年度施策の実績報告について
- (3) 小金井市一般廃棄物処理基本計画の策定について

4 その他

燃やすごみの処理量の昨年度との月別比較について（平成29年度・平成30年度）

単位：t

項目	平成29年度				平成30年度				平成29年度・平成30年度比較増減量 (G=F-C)	平成29年度・平成30年度比較増減率 (H=G/C)
	合計(C=A+B)				合計(F=D+E)					
	家庭系(A)	1人1日 当たり(g)	事業系(B)		家庭系(D)	1人1日 当たり(g)	事業系(E)			
4月	911.9	253.6	27.8	939.7	975.6	268.9	33.1	1,008.7	69.0	7.34%
5月	1,029.4	277.0	32.4	1,061.8	1,011.0	269.4	33.2	1,044.2	△ 17.6	△ 1.66%
6月	974.6	271.0	31.1	1,005.7	942.5	259.3	33.4	975.9	△ 29.8	△ 2.96%
7月	979.6	263.4	30.1	1,009.7	1,034.1	275.4	35.7	1,069.8	60.1	5.95%
8月	988.4	265.9	30.2	1,018.6	951.1	253.3	32.7	983.8	△ 34.8	△ 3.42%
9月	926.2	257.3	28.4	954.6	868.6	238.9	35.5	904.1	△ 50.5	△ 5.29%
10月	1,018.6	273.4	32.1	1,050.7	1,018.6	270.7	35.4	1,054.0	3.3	0.31%
11月	940.6	260.9	34.6	975.2	979.7	269.0	31.9	1,011.6	36.4	3.73%
12月	987.6	264.9	32.0	1,019.6	959.7	254.9	29.5	989.2	△ 30.4	△ 2.98%
1月	1,007.2	270.0	29.8	1,037.0	1,075.4	285.8	28.6	1,104.0	67.0	6.46%
2月	846.6	251.3	24.4	871.0	872.3	256.6	26.3	898.6	27.6	3.17%
3月	989.5	264.6	30.8	1,020.3	942.5	250.0	35.0	977.5	△ 42.8	△ 4.19%
合計	11,600.2	年間平均実績値 264.9	363.8	11,964.0	11,631.0	年間平均実績値 263.0	390.3	12,021.4	57.5	0.48%

※ 四捨五入による表示をしているため、合計値と一致しないことがあります。  
 ※ 月ごとの1人1日当たり排出量は、各月の末日の住民基本台帳登録人数による算出  
 ※ 平成29年度の年間平均実績値の人口は、10月1日時点の人数により算出

※ 平成29年度の燃やすごみ目標値 275.4 (g/人・日) 10.5g マイナス  
 ※ 平成30年度の燃やすごみ目標値 272.2 (g/人・日) 9.2g マイナス

令和元年度 可燃ごみ処理の支援状況について

単位：t

団体名	支援量	搬入量 (4月末日実績)
多摩川衛生組合 (※1)	4,700	493.46
国分寺市	2,700	276.63
ふじみ衛生組合 (※2)	2,600	267.35
合計	10,000	1,037.44

(※1)：構成市(稲城市・狛江市・府中市・国立市)

(※2)：構成市(三鷹市・調布市)

平成30年度 可燃ごみ処理の支援状況について

単位：t

団体名	支援量	搬入量 (3月末日実績)
多摩川衛生組合 (※1)	6,000	5,493.81
国分寺市	3,600	3,291.07
ふじみ衛生組合 (※2)	3,500	3,207.43
合計	13,100	11,992.31

(※1)：構成市(稲城市・狛江市・府中市・国立市)

(※2)：構成市(三鷹市・調布市)



小環ご発第54号  
令和元年6月27日

小金井市廃棄物減量等推進審議会

会長 岡山 朋子 様

小金井市長 西岡 真一郎



事業系可燃ごみ処理手数料の見直し等について（諮問）

このことについて、下記の事項を貴審議会へ諮問いたします。

#### 記

#### 1 諮問事項

事業系可燃ごみ処理手数料及び家庭ごみ処理手数料（持込分）の見直しについて

#### 2 諮問理由

廃棄物の処理及び清掃に関する法律において、事業活動に伴って排出される廃棄物は、排出事業者自らの責任において適正に処理することが義務付けられております。

また、市町村において処理する場合には、廃棄物の処理に係る原価相当の料金を徴収することが望ましいとされております。

現在の事業系可燃ごみ処理手数料（持込分）は、広域支援による費用負担に合わせて、小金井市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例（以下「条例」という。）を改正し、平成20年12月1日から55円に見直しを行ったことから、今回、令和2年4月1日の浅川清流環境組合新可燃ごみ処理施設（以下「新可燃ごみ処理施設」という。）の本格稼働に合わせて、排出事業者に適正な費用負担を求めるため、原価相当の料金に合わせて、42円に見直しを考えております。

また、事業系可燃ごみ処理手数料（臨時排出分）についても、これまでと同様に事業系可燃ごみ処理手数料（持込分）に11円を上乗せし、5.3円に見直しを考えております。

なお、家庭ごみ処理手数料（持込分）については、可燃ごみ、不燃ごみともに新可燃ごみ処理施設、清掃関連施設において持ち込みを想定していないことから、新可燃ごみ処理施設の本格稼働に合わせて、条例の規定を削除することを考えております。

以上の事項につきまして、貴審議会のご意見、ご見解を賜りたく、諮問いたします。

### 3 その他

諮問事項に合わせて、以下の項目について条例の改正を考えておりますので申し添えます。

- (1) 事業系一般廃棄物管理票に関する規定の削除
- (2) 生活環境影響調査結果の縦覧等に関する規定の整備

【計画項目について】

計画項目		重点度	対応する施策	小金井市廃棄物減量等推進審議会の評価																	
				取組内容の進捗度 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)								施策の有効性 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)									
				5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	未回答	5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	未回答
1 ごみを出さないライフスタイルの推進																					
取組内容	(1) ライフスタイル変革への支援	優先	①②	1	7	5	0	0	48	3.7	0	0	1	6	6	0	0	47	3.6	0	0
	(2) ごみになるものはもらわない・買わない取り組みの推進	優先	①②	0	5	8	0	0	44	3.4	0	0	2	2	7	1	1	42	3.2	0	0
	(3) 食品ロス削減の推進	優先	①②④	1	9	3	0	0	50	3.8	0	0	1	5	6	1	0	45	3.5	0	0
	(4) 生ごみの水切り及び自家処理の推進	優先	①②③	0	7	4	1	0	42	3.5	0	1	3	2	3	4	0	40	3.3	0	1
	(5) マイバッグ・マイボトル・マイはしの利用促進	優先	①②	1	8	3	1	0	48	3.7	0	0	2	6	3	1	1	46	3.5	0	0
小金井市廃棄物減量等推進審議会委員からのコメント (自由記入)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスやマイクロプラスチック、海ごみなどの環境問題は、市が主催の講習会に加え、市民講座も開講されています。受講してみた講座は、大変ためになるものも多いので、好評な場合には、講義内容の要旨を、講師に執筆して頂き、市報やHPに掲載するというのは如何でしょうか。</li> <li>・市報に掲載する記事はテーマを決めて、シリーズ化するというのは如何でしょうか。例えば、「ごみ減量大作戦」などで、3~4ヵ月くらいの期間で実施出来ないでしょうか。</li> <li>・施策②「学習機会の提供」で実績28回は、目標40回を達成できていないし、前年の36回より減っている。出前要請を待つだけではなく、積極的な機会提供の計画が必要ではないか？</li> <li>・施策③「生ごみの水切り及び自家処理等の推進に関する調査・研究」は、「調査・研究」を維持継続しても結果が出せない。生ごみ減量施策の切り口を変える必要があるのではないか？</li> <li>・取組内容(5)「マイバッグ・マイボトル・まいはしの利用促進」は、今後のプラ削減キャンペーンでバッグ・ボトルは期待できる。来年度の重点施策にすべき。</li> <li>・「くるくるカメくん」エコバッグは売れているのか？主婦は買わないと思うが、どういう人が購入して年間の販売数を知りたい。</li> <li>・海洋プラスチックごみが話題になっている今、小金井市として、何かできないか。</li> <li>・生ごみの水きりネットを駅頭で配るのではなく、ゴミ袋販売コーナーのところに、ご自由にお持ち下さいのポップを付けて、置けないものか？(期間限定で)</li> <li>・大阪サミットなど最近、マスコミ等による報道でレジ袋等が多くあり、今後期待したい。(まだ一般的には進んでいないと思う。)</li> <li>・(1)ライフスタイル変革をもたらすために何が有効かはなかなか難しい。引き続き模索・試行錯誤が必要。</li> <li>・(2)「買わない」をもっと積極的にPRできるとよいと思う。</li> <li>・(3)フードバンク取り組みは社会福祉的には効果があるかもしれないが、廃棄物削減という点では量は少なく、賞味期限に対する誤った認識を助長する可能性もある。賞味期限の意味やそれに対する態度などPRできることもまだ多い。</li> <li>・大きな施策とそれを実践する地道な活動が混在している。もっと整理すべき。マイ箸に関しては基本的に意味なし。</li> <li>・ライフスタイルの変革という点では、もっと積極的に若い層にアプローチすることが必要。また学校との連携をもっと市民の目に見える形で取り組むことが必要である。</li> <li>・食品ロスは処分方法より、減らす方法の方が重要だと思います。その結果、生ごみの水切りにも等にも違いが出てくるのでは？</li> </ul>																			

【施策について】

Plan		Do		Check				Do		Check				Action
具体的な取組		目標	実績	30年度				目標	実績	29年度				
				施策進捗	効率性	評価理由	方向性			施策進捗	効率性	評価理由	方向性	
①	④ 広報媒体活用の充実(チラシ、市報、市ホームページ、スマートフォン等)	—	6回	A	A	特集号において、3010運動や海ごみの問題の新たに記事を掲載し、情報提供を行った。キャラクター等を活用し、わかりやすく、目に留まりやすいようレイアウトを工夫した。	推進	—	7回	—	—	計画項目5参照	—	
②	① 学習機会の提供(出張講座、施設見学会、イベント等)	計画項目5参照(年40回)	28回	B	A	市内保育園や小学校の授業への参加など、積極的に出張講座を実施している。内容を子ども向けにわかりやすくするなど工夫し、食品ロスや3Rについての啓発を図った。	推進	—	—	—	—	計画項目5参照	—	
③	② 生ごみの水切り及び自家処理等の推進に関する調査・研究	維持継続	維持継続	B	B	可燃ごみの約半分を占める生ごみの減量に向け、市報等により水切りや自家処理の啓発を行ったほか、より効果的な減量施策を研究したが、具体案を示すには至らなかった。	推進	小委員会の開催	小委員会6回開催	A	B	可燃ごみに含まれる未活用資源の有効利用方策の調査研究に関する小委員会を開催し、成果を報告書にまとめた。	完了	
④	③ 食品ロス削減に関する取組	月1回拠点回収	13回(4~3月市民まつり1回分含む)	A	B	4月から社会福祉協議会敷地内での拠点回収を毎月実施し、集められた食品は社会福祉協議会やNPO法人を通じて市内の生活困窮者や社会福祉施設、フードバンクなどへ届けた。	現状維持	維持継続	フードドライブ拠点回収試行実施9回(市民まつり1回分含む)	A	B	拠点回収によるフードドライブを8月から毎月実施した。また、集まった食品の市内循環に向けて社会福祉協議会と実施方法の協議を進めた。	推進	

Action
評価を踏まえた今後の展開及び分析 発生抑制には市民意識を高めることが重要であるため、社会問題として多くのメディアに取り上げられ、市民の関心も高まっていると考えられる食品ロスやマイクロプラスチックについての記事を市報に掲載した。掲載にあたっては、3010運動や海ごみなど、より身近でわかりやすくなるように努めた。今後も様々な媒体を利用し、啓発活動を実施していく。 新可燃ごみ処理施設の本格稼働後も、引き続き可燃ごみの減量に努めなければならないため、フードドライブのみならず、食品ロス削減に関する事業展開を検討するほか、可燃ごみの約半量を占める生ごみの減量に効果的である水切りや自家処理の推進のなど、効果的な減量施策を研究していく。

審議会委員による29年度の評価状況

【計画項目について】

計画項目		重点度	対応する施策	小金井市廃棄物減量等推進審議会の評価															
				取組内容の進捗度 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)									施策の有効性 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)						
5	4			3	2	1	合計	平均	評価不能	5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能		
1	ごみを出さないライフスタイルの推進																		
取組内容	(1) ライフスタイル変革への支援	優先	①②③④	1	4	1	2	1	29	3.2	1	1	3	2	2	1	28	3.1	1
	(2) ごみになるものはもらわない・買わない取り組みの推進	優先	①②③④	1	4	1	3	0	30	3.3	1	1	3	1	3	1	27	3.0	1
	(3) 食品ロス削減の推進	優先	①②③④	2	4	1	2	1	34	3.4	0	2	5	2	1	0	38	3.8	0
	(4) 生ごみの水切り及び自家処理の推進	優先	①②③④	0	7	2	1	0	36	3.6	0	1	5	2	2	0	35	3.5	0
	(5) マイバッグ・マイボトル・マイはしの利用促進	優先	①④	1	5	3	0	1	35	3.5	0	2	4	3	1	0	37	3.7	0



【計画項目について】

計画項目		重点度	対応する施策	小金井市廃棄物減量等推進審議会の評価																	
				取組内容の進捗度 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)								施策の有効性 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)									
				5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	未回答	5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	未回答
取組内容	(1) リユースルートの構築と円滑な運用を促進	継続	①④⑥	0	6	4	3	0	42	3.2	0	0	1	6	5	1	0	46	3.5	0	0
	(2) くつ・かばん類の効果的回収や有効活用の推進	重点	①④	0	6	2	3	0	36	3.3	1	1	1	4	6	2	0	43	3.3	0	0
	(3) リユース食器の有効活用	重点	①③⑤	0	10	3	0	0	49	3.8	0	0	1	7	3	1	1	45	3.5	0	0
	(4) リユース活動の支援と周知	重点	①③⑥	0	5	3	4	0	37	3.1	0	1	0	2	7	2	1	34	2.8	0	1
	(5) リユース施策の調査・研究	重点	②④⑥⑦	0	3	5	3	2	35	2.7	0	0	0	4	5	1	3	36	2.8	0	0

小金井市廃棄物減量等推進審議会委員からのコメント (自由記入)

- 紙袋の再利用も定着化すれば、一層の資源化が進むことに期待しています。市として分別回収をなくしても、家庭や職場内で再利用としてストックすることを提案しては如何でしょうか。レジ袋代わりにすれば、廃プラスチック対策としての効果も期待できるのではないのでしょうか。
- 施策④「くつ・かばん類を含む分別区分及び回収方法の見直しの検討」前年から月一回1時間の回収では少ないと指摘されているが改善されていないのは問題。
- リサイクル事業の在り方、今後の方針が出せないままに閉鎖して、その後暫定的な継続再開に見られるように、市としてきちんとしたリサイクル(リユース)の考え方が無い。二枚橋での新施設の行方も含めて、早急にシルバーとの協議を含めリサイクル品の取り扱い方針を確立すべき。
- 施策⑦「リユース推進施策の調査・研究」で「会議や研修に積極的に参加、情報収集」の具体的成果は何か？
- 「フリーマーケットの案内」が周知されているとは思えないが。
- 「回収された紙袋を雑紙回収袋として市民へ提供」という話は、ごみゼロ推進会議でも聞いていない。その程度の広報か？
- くつ・かばんの回収は、場所の確保がなく、できていないのでは？再開できた時は、曜日、時間を再検討してほしい。本気が見えない！
- (3)(4)(5)については全く進んでいないのでは。リユース品を1つでもなくすと、100円で賠償金が難点では。
- くつ・かばんは夏休の生ごみの時、有効利用をしたい。
- (1)リサイクル事業所については実質後退？
- (2)くつ・かばんのリユースの実態を把握していないので評価不能。できているとしたらもっとPRしてもよい。
- リユースの見える化を検討しましょう。もっとデザインに気を配ること。それがモノを大切にすることにつながります。
- 高齢者の施設入居に伴う引っ越しや空き家バンク登録時などにリユースの仕組みを周知生かせるようなことを検討すべきではないか。今までのリユースの範疇で考えていると進展はない。

【施策について】

Plan	Do		Check				Do		Check				Action	
	具体的な取組	目標	実績	30年度				目標	実績	29年度				
				施策進捗	効率性	評価理由	方向性			施策進捗	効率性	評価理由		方向性
① ⑧	広報媒体活用の充実 (チラシ、市報、市ホームページ、スマートフォン等)	—	5回	A	A	フリーマーケットの案内について周知を行い、リユース意識の啓発を図った。引き続き広報媒体を活用していく。	推進	維持継続	9回	—	—	計画項目5参照	—	
② ①	有効利用先の確保 (リユースできるもの)	強化継続	随時	A	A	資源ごみとして回収された紙袋のうち使用に耐えうるものを「雑紙回収袋」として市民に提供する試みを開始した。	推進	強化継続	随時	B	B	平成27年度に下着類を資源物(布)として回収を開始して以降、題材となる分野が枯渇しつつあるため、引き続き調査・研究を行ったものの、品目の拡大はできなかった。	現状維持	
③ ②	学習機会の提供 (出張講座、施設見学会、イベント等)	計画項目5参照 (年40回)	12回 (延28回)	B	A	小学校の授業への参加など、積極的に出張講座を実施している。出張講座の際に、他の施策の啓発とともにリユースについても啓発を図った。	推進	—	—	—	—	計画項目5参照	—	
④ ③	くつ・かばん類を含む、分別区分及び回収方法の見直しの検討	維持継続	随時	C	B	新たな分別区分等について随時調査・研究を行った。くつ・かばん類は昨年より回収量が上がったが、回収日が毎月1回(平日)しかないなどの課題があるため、受け入れ業者の拡大と市民が自主的に置いていける場所の確保も含めた検討を引き続き続ける。	推進	強化継続	維持継続	C	B	新たな分別区分等については随時調査・研究を行った。くつ・かばん類は昨年より回収量が上がったが、回収日が毎月1回(平日)しかないなどの課題があるため、市民が自主的に置いていける場所の確保も含め検討した。	現状維持	

⑤	④	リユース食器無料貸出し	年20件	29件	A	B	利用実績は目標を超えることができた。貸出団体はリピーターが多く、市民へある程度は定着したことがうかがえる。新規貸出団体の開拓と有料化への理解をどのように進めていくか引き続き検討を続ける。	現状維持	年20件	年25件	A	B	試行中の無償貸し出しの件数は順調に伸びたが、利用者へのアンケートでは自己負担が生じる場合は利用しないとの意見もあった。市民まつりにおける利用が貸出数の多くを占めるが、食器の紛失が問題視されているため、今年度はごみゼロ化推進員の協力（返却ブースの運営）を得て市民まつりでの利用を継続した。	現状維持	
⑥		リユース事業（リサイクル事業所）の在り方の検討	維持継続	完了	B	C	運営先である小金井市シルバー人材センターと協議を行い、平成30年度末をもって現事業所の営業を終了することとなったが、リサイクル事業所の継続について、改めて協議を行い、新たなリユース事業の実施を行うこととなった。今後については、平成29年度に策定した「清掃関連施設整備基本計画」に基づき、二枚橋焼却場跡地に粗大ごみの手解体・一時保管施設の整備を進めているが、再生品の展示販売等の手法については、継続して検討を進める。	完了							
⑦	⑦	リユース推進施策の調査・研究	維持継続	随時	B	B	会議や研修などに積極的に参加し、新たなリユース推進施策に関する情報収集を行った。	推進	維持継続	随時	B	B	機会を捉えて近隣市や他のリサイクル率上位自治体と情報交換するなど情報収集に努めた。	推進	
	⑤	リサイクル事業所（小金井市シルバー人材センター）との連携						維持継続	随時	A	C	リユース意識の啓発に適う事業であることから、協定に基づき、小金井市シルバー人材センターの「リサイクル事業所」事業に運営助成を行った。	清掃関連施設整備事業の一部として検討		
	⑥	フリーマーケットの支援						維持継続	維持継続	B	C	フリーマーケットの概念も定着しており、ごみ対策課としての支援の使命は一定程度果たされた。	縮小		

Action	新たな有効利用先の確保について検討していたところであるが、資源ごみとして回収された紙袋のうち使用に耐えうるものを「雑紙回収袋」として市民に提供する試みを開始したところ、利用者も多く好評を得ている。雑紙は可燃ごみとして出されることも多いが、小さな紙片も資源ごみとしてリサイクルが可能であることから、今後も同様の取組を研究していく。
評価を踏まえた今後の展開及び分析	リユース食器の貸し出しについては、有償化となっても利用率が下がることのないよう実施に向け引き続き検討するとともに、利用することのメリットについて、飲食業界にも働きかけを行うなど、新規利用団体を開拓していく必要がある。 リサイクル事業所については、平成30年度末をもって営業を終了することになったものの、令和元年6月2日より新たなリユース事業を開始した。しかし、庁舎の建設予定地であることから長期的な営業は難しく、二枚橋焼却場跡地に整備を予定している粗大ごみの手解体・一時保管施設において、どのような手法を用いてリユース品を展示販売等をしていくか、清掃関連施設整備事業の中で検討を進める。

審議会委員による29年度の評価状況

【計画項目について】

計画項目		重点度	対応する施策	小金井市廃棄物減量等推進審議会の評価																
				取組内容の進捗度（分布件数・合計点・平均点・不能件数）									施策の有効性（分布件数・合計点・平均点・不能件数）							
2		リユースの推進		5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	
取組内容	(1)	リユースルートの構築と円滑な運用を促進	継続	①②③④⑤⑥⑦⑧	0	4	3	2	1	30	3	0	3	1	2	4	0	33	3.3	0
	(2)	くつ・かばん類の効果的回収や有効活用の推進	重点	①②③⑦⑧	1	5	2	1	1	34	3.4	0	2	4	2	2	0	36	3.6	0
	(3)	リユース食器の有効活用	重点	①②④⑦⑧	1	3	4	1	1	32	3.2	0	1	3	3	3	0	32	3.2	0
	(4)	リユース活動の支援と周知	重点	①②③④⑥⑦⑧	0	4	0	5	1	27	2.7	0	0	3	3	4	0	29	2.9	0
	(5)	リユース施策の調査・研究	重点	①③④⑥⑦	0	3	2	4	1	27	2.7	0	0	3	3	3	1	28	2.8	0

【計画項目について】

計画項目		重点度	対応する施策	小金井市廃棄物減量等推進審議会の評価																	
				取組内容の進捗度 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)								施策の有効性 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)									
				5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	未回答	5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	未回答
取組内容	(1) 組成分析の実施	継続	②	3	7	2	1	0	51	3.9	0	0	2	7	3	0	1	48	3.7	0	0
	(2) 正しい分別方法の周知	重点	①③④	3	7	3	0	0	52	4.0	0	0	1	9	2	1	0	49	3.8	0	0
	(3) 清掃指導員による分別指導の徹底	重点	④⑤	3	8	2	0	0	53	4.1	0	0	3	6	3	0	1	49	3.8	0	0
小金井市廃棄物減量等推進審議会委員からのコメント (自由記入)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小金井市に長く在住し、廃棄物減量を徹底してきた市民でも、日野市での焼却場が稼働後には、問題意識が薄れることが心配です。分別を徹底し、更なる削減が必要であるということ、改めて周知徹底して頂きたい。</li> <li>・年4回の可燃ごみの組成分析の結果は、減量施策に役立っているか？</li> <li>・「ごみ相談員との連携」の効率性がBであるのはなぜか？</li> <li>・一軒家については、改善しつつあると思うが、独身用アパート等については、もっとオーナー・管理会社に協力をお願いした方がよい。</li> <li>・(1)計画書における組成分析は焼却処理の円滑な実施を主眼としたものであり、3R可能性の実態把握には役に立たず、施策の有効性は低い。</li> <li>・(3)廃棄物やりサイクルの処理施設を実質的に持たない小金井市は分別以外の直接的な手段がないので、多種分別を合理的に追求するしかないと考える。</li> <li>・ごみ相談員の制度を再考すべきです。</li> <li>・ここで組成分析も行われるので取り組みが進むことを期待している。清掃指導員の分別指導は、他市と比べ徹底していると感じる。</li> <li>・基本的に分別の講座を聞いてくれる方は、分別が出来ている方だと思います。それ以外の方への講座が大事だと思います。</li> </ul>																			

【施策について】

Plan		Do		Check				Do		Check				Action
具体的な取組		目標	実績	30年度				目標	実績	29年度				方向性
				施策進捗	効率性	評価理由				方向性	施策進捗	効率性	評価理由	
①	⑤	広報媒体活用の充実(チラシ、市報、市ホームページ、スマートフォン等)	—	5回	A	A	有害ごみや紙ごみの分別について、特集号で広く周知を図った。有害ごみについては、分別をしないことによる危険があることを理解していただくため、紙面を工夫し、目に留まるような工夫を行った。	推進	—	3回	—	—	計画項目5参照	—
②	①	組成分析	—	年4回(可燃)	A	A	計画通り組成分析を実施した。分析結果は、減量施策の検討等に活用した。	現状維持	年4回(可燃)	年4回(可燃)	A	B	計画通り組成分析を実施した。また、分析結果をどのようにごみ減量啓発に活用するかを検討した。	推進
③	②	学習機会の提供(出張講座、施設見学会、イベント等)	強化継続	12回(延28回)	B	A	小学校の授業への参加に加え、保育園児や一般市民を対象として出張講座を実施した。紙芝居や生ごみからできた堆肥を使用し、野菜の収穫体験を盛り込むなど、内容を工夫し、資源循環の大切さについて啓発を図った。	推進	—	—	—	—	計画項目5参照	—
④	③	ごみ相談員(ごみゼロ化推進員)との連携	計画項目5参照	—	B	B	前年度からの課題となっている「ごみの相談員」の役割については、部会単位で相談員として現時点で活動できることを検討した結果、研修を充実させる工夫を行った。	現状維持	—	—	B	B	ごみゼロ化推進会議と事務局双方で「ごみ相談員」の役割について再確認を行い、今後の活動についてごみゼロ化推進員と協議を行った。	現状維持
⑤	④	分別方法の見直しの検討	維持継続	随時	B	B	現在すでに多岐にわたる分別区分を市民に課している状況であり、新しい分別方法の導入は困難であるが、近隣市等との情報交換に努めながら、時代にマッチングした分別方法導入について随時調査、研究を継続して行う。	現状維持	強化継続	強化継続	B	B	近隣市等との情報交換に努めながら、時代にマッチングした分別方法について随時調査、研究を行った。	現状維持

Action
評価を踏まえた今後の展開及び分析 家庭ごみについては、市民の協力の下、分別の徹底が進んでいるが、転入者(特に若年層)と事業所に対し更なる分別の周知を図っていく必要がある。事業所に対して、市の職員である清掃指導員が分別指導を随時行っているほか、市民からの分別の問い合わせについても、必要に応じて清掃指導員が現場に出向き、分別方法や捨て方の説明などを行っている。今後も、これらを継続していくとともに、わかりにくい分別ルールについては、市報やアプリ、出張講座などできめ細かくフォローし、啓発を行っていく。

審議会委員による29年度の評価状況

【計画項目について】

計画項目		重点度	対応する施策	小金井市廃棄物減量等推進審議会の評価															
				取組内容の進捗度 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)							施策の有効性 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)								
5	4			3	2	1	合計	平均	評価不能	5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能		
3	分別の徹底																		
	(1) 組成分析の実施	継続	①	2	4	0	3	1	33	3.3	0	2	3	3	1	1	34	3.4	0
	(2) 正しい分別方法の周知	重点	②④⑤	1	6	1	2	0	36	3.6	0	2	3	3	2	0	35	3.5	0
	(3) 清掃指導員による分別指導の徹底	重点	②④⑤	0	5	3	2	0	33	3.3	0	1	2	5	2	0	32	3.2	0

【計画項目について】

計画項目		重点度	対応する施策	小金井市廃棄物減量等推進審議会の評価																		
				取組内容の進捗度 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)								施策の有効性 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)										
				5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	未回答	5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	未回答	
取組内容	(1) 資源物戸別・拠点回収の充実	重点	②⑬	0	11	2	0	0	50	3.8	0	0	2	8	3	0	0	51	3.9	0	0	
	(2) 資源化ルートの構築と円滑な運用を推進	重点	②③⑬	0	7	5	1	0	45	3.5	0	0	1	5	6	1	0	45	3.5	0	0	
	(3) 生ごみ減量化処理機器購入費補助制度の推進	重点	①④⑤⑥⑦	0	7	4	2	0	44	3.4	0	0	1	5	7	0	0	46	3.5	0	0	
	(4) 生ごみ堆肥化事業の推進	重点	①④⑧⑨⑩⑪	1	7	2	3	0	45	3.5	0	0	2	3	7	1	0	45	3.5	0	0	
	(5) 枝木・雑草類・落ち葉の有効活用																					
	(6) 未活用資源の有効利用方策の調査・研究	継続	③⑫	0	3	3	3	1	28	2.8	1	2	0	3	5	0	2	29	2.9	1	2	
小金井市廃棄物減量等推進審議会委員からのコメント (自由記入)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・循環システムが持続的なものとなるためには、資源ごみが一定量、安定して供給されることも、重要と思います。新たな回収場所の設置はそのためにも大切なことなので、引き続き尽力され、成果が出ることに期待しています。</li> <li>・施策②「資源物個別・拠点回収」は、二年続けて「新たな拠点回収場所の検討を行った」進捗Bであるが、結論は？</li> <li>・施策③「有効利用先の確保」は、「随時調査研究を行った」結果は？ここも毎年進捗B。</li> <li>・施策⑤「家庭用生ごみ処理機器購入費補助」 目標350件に対し実績263件は、まだ広報が足りない。</li> <li>・施策⑥⑦ 大型生ごみ関連の補助は、来年度から廃止の方向で見直すべき。</li> <li>・施策⑫「廃食油の回収・・・」検討経過も審議会に報告して欲しい。</li> <li>・Action 「拠点回収場所に充実・・・至らなかった」「食品リサイクル堆肥の配送を実施した効果」「農業懇談会の実施」などの記述あるが、これらの中味についても審議会で報告されない今後の展開に役立たない。</li> <li>・枝木・雑草類・落ち葉の戸別回収で全量資源化できていることが大きな進歩と思う。</li> <li>・生ごみ堆肥化事業の費用対効果を数字で知りたい。</li> <li>・”リサイクル貧乏”になりすぎないように。(児童館等の設備費に回してほしい！)</li> <li>・(2)汚れたプラスチックの行先が危ぶまれる昨今ですが、市民による高精度の分別を売りに資源循環を維持できるよう願っています。</li> <li>・(4)生ごみ処理機や土曜・夏休み投入など、一部に定着している生ごみ分別を活かしつつ合理的なシステムを構築すべき。</li> <li>・夏休み生ごみたい肥化は実質よりはプロモーション活動なので、地域子供会などとの連動も必要。</li> <li>・樹木の剪定はまったく美的、実用的ではない。あれでは剪定ではなく伐採。樹木は葉がなければ木でなく、生きられません。即時、再考を実施を！</li> <li>・生ごみたい肥化に関しては、低調と感じられ3市の取組の中で再検討する段階ではないかと思う。</li> </ul>																				

【施策について】

Plan	Do		Check				Action					
	目標	実績	30年度									
			施策進捗	効率性	評価理由	方向性						
具体的な取組	目標	実績	施策進捗	効率性	評価理由	方向性	目標	実績	施策進捗	効率性	評価理由	方向性
①⑭ 広報媒体活用の充実(チラシ、市報、市ホームページ、スマートフォン等)	—	11回	A	A	資源循環教室や生ごみ投入リサイクル事業、堆肥の無料配布など、資源循環システムの基礎となる事業の周知活動を行った。	推進	—	16回	—	—	計画項目5参照	—
②① 資源物戸別・拠点回収	—	随時	B	A	資源循環システムの構築により、可燃、不燃ごみの更なる減量を図った。拠点回収については、利用拡大のための啓発の強化と併せて、新たな拠点回収場所(ボックス設置場所)の検討を行った。	推進	—	随時	B	A	資源循環システムの構築により、可燃、不燃ごみの更なる減量を図った。拠点回収については、利用拡大のための啓発の強化と併せて、新たな拠点回収場所(ボックス設置場所)の検討を行った。	推進
③② 有効利用先の確保(資源物)	維持継続	随時	B	B	資源物の売払い及び有効利用について適正になされるようルートの構築に努めた。また新たな資源物品目の生み出し、有効利用等について随時調査、研究を行った。	現状維持	維持継続	維持継続	B	B	他市の取り組みや廃棄物減量審議会小委員会での研究結果に注視しながら情報収集に努めた。	推進
④③ 学習機会の提供(出張講座、施設見学会、イベント等)	計画項目5参照(年40回)	28回	B	A	小学校の授業への参加など、積極的に出張講座を実施した。出張講座の際に、他の施策の啓発とともにリユースについても啓発を図った。	推進	—	—	—	—	計画項目5参照	—
⑤④ 家庭用生ごみ減量化処理機器購入費補助	年350件交付	263件	B	B	昨年度同様、補助と生ごみ乾燥物の戸別回収をセットで推進することにより、一層のごみの減量を図った。また、他自治体と比べ高い補助率には、精査が必要な時期にあると考えられる。事業者には市報、ホームページ及び窓口による打ち合わせを通じて案内しており、今年度は1件の交付に至った。	推進	年350件交付	258件	B	B	補助と生ごみ乾燥物の戸別回収をセットで推進することで、一層のごみの減量を図った。事業者には市報、ホームページ及び窓口による打ち合わせを通じて案内しており、今年度は1件の交付に至った。	現状維持
⑥ 大型生ごみ処理機購入費補助	年1件交付	0件	B	B	大型生ごみ処理機に関する専門知識を持つ市民の方々の協力を得ながら、現状課題について情報共有をしたが、交付申請には至らなかった。	現状維持						
⑦ 大型生ごみ処理機購入費補助金交付要綱見直しの検討	—	—	B	B	要綱の見直しに向け、実施内容の検討をしたが、見直しには至らなかった。	現状維持						

⑤	補助金交付要綱の整備による大型生ごみ処理機購入費補助							年1件交付	0件	B	B	大型生ごみ処理機に関する専門知識を持つ市民の方々の協力を得ながら、現状課題について情報共有を開始しているが、交付申請がなかった。	現状維持	
⑧	⑥	ごみゼロ化推進員との情報交換	適時実施	随時	A	B	各部会の会議を中心に推進員と情報共有を図り、事業の実施や啓発等についての情報共有も行った。また、専門性の高い分野については、その分野に精通している推進員と事業担当者間でも意見交換の場を設けた。	推進	適時実施	随時	A	B	各部会の会議を中心に推進員と情報共有を行った。また、専門性の高い分野については、その分野に精通している推進員と事業担当者間でも意見交換の場を設けた。	推進
⑨	⑦	夏休み生ごみ投入リサイクル事業の推進	投入者延数2,500人	1,182人	B	B	緑小の工事および東小がボランティア不足のため事業の実施ができなかった。今年度、新たに案内チラシの設置場所を2か所増やしたが、人数及び量の増には至らなかった。今後に向けて更なる広報方法の検討を行う。		投入者延数2,500人	1,473人	B	B	ボランティアと新規利用者の増加を図るためにも更なる市民への周知・広報を進めていく必要がある。	推進
⑩	⑧	市民の自主的な取組である土曜日生ごみ投入リサイクル事業の支援	—	随時	A	B	7か所で市内の小中学校において市民ボランティアの運営によって実施した。ボランティアの固定化や高齢化が問題である。継続して募集する。	推進	—	—	A	B	1年で20t前後の生ごみを減量する効果があることから、新規のボランティア及び利用者の拡大を図った。	推進
⑪	⑨	地域の農業者やJA・市内農産物取扱店との連携	維持継続	1回(農家懇談会)	A	B	農家懇談会や食品リサイクル堆肥の配布事業を通し、農業者との連携を図り、資源循環の取り組みを拡大した。	推進	維持継続	1回(農家懇談会)	C	B	農業者向けに食品リサイクル堆肥の配送を開始した。多くの農業者に堆肥を活用してもらうことを第一に考え、関係者と随時調整している。	推進
⑫		廃食油の回収・資源化に向けた事業化の検討	適時実施	適時実施	B	B	廃食油の回収を行っている自治体に回収業者や事業内容を確認するなど、小金井市での具体的な実施に向けて検討したが、実施には至らなかった。	推進						
⑩		生ごみの効率的な収集・処理、有効利用に向けた調査・研究							小委員会の開催	小委員会6回開催	A	B	可燃ごみに含まれる未活用資源の有効利用方策の調査研究に関する小委員会を開催し、成果を報告書にまとめた。	完了
⑪		枝木・雑草類・落ち葉の回収方法の見直しの検討							維持継続	平成29年4月から戸別回収隔週実施	A	A	事前申込方式から申込不要の戸別回収(隔週)に変更し利便性を図るとともに、従来燃やすごみの日に2袋まで無料回収していた落ち葉も資源として回収することとし、全量の資源化を図った。	完了
⑬	⑫	難再生古紙拠点回収箇所の拡大	新規1箇所(12箇所→13箇所)	新規1箇所(12箇所→13箇所)	A	A	目標どおり、新規1箇所を桜町上水会館とし設置した。	現状維持	新規1箇所(11箇所→12箇所)	12箇所	A	A	目標どおり、新規1箇所を前原町西之台会館に設置した。	推進
⑭		都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクトへの参加	適時実施	適時実施	A	A	市役所第二庁舎1階エントランスと4階ごみ対策課窓口に回収ボックスを設置し、市報等でも啓発を行った。市民まつりの際にも回収ボックスを設置し携帯電話等を集めていたが、金メダルを1個製作するのに必要な金属量を確保できる見通しとなったため、3月末で回収受付を終了した。	完了						
⑬		未活用資源(可燃ごみに含まれる資源化可能物)の有効利用方策の調査・研究							小委員会の開催	小委員会6回開催	A	B	可燃ごみに含まれる未活用資源の有効利用方策の調査研究に関する小委員会を開催し、成果を報告書にまとめた。	完了

Action	循環型社会を形成するためには、持続可能な資源循環システムを構築することが重要であり、品目ごとに分別された資源ごみを有効活用することもその一助となる。資源ごみを有効活用するためには、戸別回収のほか、拠点回収場所を充実することも必要であると考えられることから、新たな回収場所の検討を行っているが、設置には至らなかった。引き続き設置場所の検討を行うとともに、啓発を強化し、拠点回収の利用を促す。 また、食品リサイクル堆肥の配送を実施した効果が得られ、使用農業者数が増えることで、資源循環の取組が広がってきている。2月には農家懇談会を実施し、今後も農業者との連携を図っていくことで、より一層の資源循環の拡大を図る。
--------	--

審議会委員による29年度の評価状況  
【計画項目について】

計画項目	重点度	対応する施策	小金井市廃棄物減量等推進審議会の評価																	
			取組内容の進捗度 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)									施策の有効性 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)								
			5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能		
4 資源循環システムの構築																				
取組内容	(1)	資源物戸別・拠点回収の充実	重点	①②⑫	1	6	2	1	0	37	3.7	0	1	7	1	1	0	38	3.8	0
	(2)	資源化ルートの構築と円滑な運用を推進	重点	①②⑫⑬⑭	0	4	5	0	1	32	3.2	0	1	3	4	2	0	33	3.3	0
	(3)	生ごみ減量化処理機器購入費補助制度の推進	重点	④⑤	0	5	4	1	0	34	3.4	0	0	3	4	3	0	30	3.0	0
	(4)	生ごみ堆肥化事業の推進	重点	⑨⑩	1	1	4	3	1	28	2.8	0	1	2	3	3	1	29	2.9	0
	(5)	枝木・雑草類・落ち葉の有効活用	重点	⑪	6	3	1	0	0	45	4.5	0	6	3	1	0	0	45	4.5	0
	(6)	未活用資源の有効利用方策の調査・研究	優先	②⑩⑬	2	3	3	1	1	34	3.4	0	1	2	4	2	1	30	3.0	0

【計画項目について】

計画項目			小金井市廃棄物減量等推進審議会の評価																			
5 啓発活動の強化	重点度	対応する施策	取組内容の進捗度 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)										施策の有効性 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)									
			5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	未回答	5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	未回答		
			取組内容	(1) 広報媒体を活用した啓発活動の強化	重点	①⑤	3	9	1	0	0	54	4.2	0	0	3	5	4	1	0	49	3.8
(2) 分かりやすい広報媒体の作成	重点	①⑤⑦⑧		2	9	2	0	0	52	4.0	0	0	2	6	4	1	0	48	3.7	0	0	
(3) キャンペーンの実施	重点	②		1	9	2	1	0	49	3.8	0	0	1	5	6	1	0	45	3.5	0	0	
(4) イベントへの出展	重点	③⑧		0	8	4	1	0	46	3.5	0	0	1	4	7	1	0	44	3.4	0	0	
(5) 転入者への啓発強化	重点	①④		0	8	2	3	0	44	3.4	0	0	3	1	7	2	0	44	3.4	0	0	
(6) 効果的な啓発活動の調査・検討	重点	⑥		0	8	3	1	1	44	3.4	0	0	0	4	5	3	1	38	2.9	0	0	
小金井市廃棄物減量等推進審議会委員からのコメント (自由記入)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日野市での焼却場稼働により、廃棄物減量に対する小金井市民の問題意識が薄れないよう、引き続き啓蒙キャンペーンに注力してほしい。</li> <li>・転入者への啓発強化は、庁舎内チラシ配布時期の見直しが必要。</li> <li>・(5)転入者の啓発に関して、新年度学生が転入され、生ごみ・ペットボトル等の出しかたの指導強化するべきだ。ペットボトルは、キャップを外し、フィルムをはがして自主回収に指導するべきだ。</li> <li>・「伝わっていない層」を的確に把握し、有効な広報啓発活動を行っていく必要がある。</li> <li>・中小事業者へのさらなるゴミ減量等の啓蒙活動推進すべきです。</li> <li>・広報活動は、判りやすく周知も出来ている。</li> <li>・転入者に対しては、不動産会社にも積極的に協力して頂けたらと思います。</li> </ul>																				

【施策について】

Plan	Do		Check				Do		Check				Action
具体的な取組	目標	実績	30年度				目標	実績	29年度				方向性
			施策進捗	効率性	評価理由	方向性			施策進捗	効率性	評価理由	方向性	
① ⑥ 広報媒体活用の充実 (チラシ、市報、市ホームページ、スマートフォン等)	—	特集号 (年4回)、市ホームページ・アプリ (随時)	A	A	特集号 (年4回) の発行時や、市報に掲載する際には、従前の内容を見直し、挿絵を入れたり表現を変更するなど、適宜工夫した。また、イベントやごみの出し方の周知について、市ホームページやアプリを積極的に活用した。	推進	—	特集号年4回啓発チラシ年1回	A	A	市報について特集号を年4回作成する他、毎月15日号に「市民1人当たり1日のごみ排出目標と実績」を報告した。後者については、前月及び前年同月の実績値も掲載するようにし、比較がしやすいようにした。	推進	
② ① ごみ減量キャンペーンの実施	4回	7回	A	B	7月に駅頭にて2回、10月に市民まつりにおいて2回、2月に駅頭にて1回、理事者・議員・ごみゼロ化推進員によるキャンペーンを行った。まち美化部会において店舗前キャンペーンを2回行った。	現状維持	4回	駅頭2回、市民まつり1回、まち美化部会店舗前1回	A	B	駅頭2回 (2駅で計2日間)、市民まつり1回 (雨天により1回中止)、店舗前1回実施。前年同様に理事者・議員・ごみゼロ化推進員によるキャンペーンを実施した。また、3月に転入者への啓発を目的としたキャンペーンを実施した。	現状維持	
③ ② イベント (市民まつり) への出展	年1回	1回	B	A	市民まつり (2日間) 食品ロス削減の取組としてフードドライブを実施した他、分別クイズ、啓発パネル展示、資源循環体験、リサイクル堆肥無料配布、メダルプロジェクトにおける携帯電話・スマートフォンの回収、エコバッグの販売、ごみ減量キャンペーン等を行った。	現状維持							
② イベントへの出展							年1回	年2回 (桜まつり、市民まつり)	B	B	桜まつり (1日)、市民まつり (2日間) 今年度は例年の啓発活動に加え、新たに「都市鉱山からつくる! みんなのメダルプロジェクト」による携帯電話・スマートフォンの回収やエコバッグの販売などを行った。市民まつりで使用されるリユース食器の紛失が問題とされていたが、ごみゼロ化推進員の協力により食器の返却ブースを運営し、イベントにおけるリユース食器活用の取組をサポートすることができた。しかし、両日とも雨の影響で客足が伸びなかった。	現状維持	

④	③	転入者への啓発強化	強化継続	維持継続	B	A	ごみゼロ化推進会議のごみゼロ化啓発部会と連携し、今年度も転入者の多い3月に第二庁舎において転入者対策のチラシ配布を行った。またごみゼロ化啓発部会では、来年度新たに自治会や町会をターゲットに啓発活動を行う予定であり、転入者もターゲットとして含めることで、転入者にとってわかりにくい分別や小金井市の取り組みを紹介する機会やチラシを配布できると考えている。	推進	強化継続	強化継続	A	B	ごみゼロ化推進会議のごみゼロ化啓発部会と連携し、転入者対策のプロジェクトチームを立上げ、現状把握、課題解決、啓発方法の立案を行った。	推進
⑤	④	学習機会の提供（出張講座、施設見学会、イベント等）	年40回	28回	B	A	小学校の授業への参加に加え、保育園児や一般市民を対象として出張講座を実施した。紙芝居や生ごみからできた堆肥を使用し、野菜の収穫体験を盛り込むなど、内容を工夫し、資源循環の大切さについて啓発を図った。	推進	年40回	年36回	B	B	市内連携により、市内保育園にて積極的に出張講座を実施した。小学校の授業への参加など、子どもから大人への啓発も期待できるため、継続して取り組み、ごみ減量キャラクターを用いた劇形式の講座を実施するなど内容の工夫を図った。	推進
⑥	⑤	効果的な啓発活動の調査・研究	適時実施	適時実施	A	A	市報・市ホームページやごみ分別アプリを活用して分かりやすい情報提供に努めた。また、ごみゼロ化啓発部会とともに、来年度から新たな啓発活動を実施する予定である。	推進	適時実施	適時実施	B	A	市報・市ホームページやごみ分別アプリを活用して分かりやすい情報提供に努めた。また、市公式ツイッターアカウントにて「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」の実績報告などを行った。	推進
⑦		冊子「くらしの中のごみ減量」の改訂	—	発行	A	A	食品ロスや減量施策の変更点の反映等、掲載内容を更新するとともに、ごみ量数値等を書き込み式に変更することで、より長く使用できるよう工夫した。学校等での出張講座の教材としても引き続き活用していく。	推進						
⑧		ごみ減量キャラクターの活用方法の見直し	—	随時	A	A	リサイクル推進協力店の看板にごみ減量キャラクターを使用するなど、活用の機会を増やした。子どもにも親しみやすいキャラクターを使用することで、啓発活動を推進した。	推進						

Action	<p>転入者への啓発のほか、駅頭や市民まつりでキャンペーンを実施した。分別の徹底や資源の有効活用がごみの減量にも繋がることから、今後も様々な機会を利用してキャンペーンを実施していく。</p> <p>また、市報・市ホームページやごみ分別アプリを活用して、分かりやすい情報提供に努めるほか、小学校への授業参加の際にも、減量キャラクターを多用するなど、大人だけでなく、子どもに対する啓発も強化していく。</p>
--------	--

審議会委員による29年度の評価状況

【計画項目について】

計画項目		重点度	対応する施策	小金井市廃棄物減量等推進審議会の評価																	
				取組内容の進捗度（分布件数・合計点・平均点・不能件数）									施策の有効性（分布件数・合計点・平均点・不能件数）								
取組内容	5	啓発活動の強化		5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能		
		(1)	広報媒体を活用した啓発活動の強化	重点	⑥	4	4	0	1	1	39	3.9	0	6	2	1	0	1	42	4.2	0
		(2)	分かりやすい広報媒体の作成	重点	⑥	3	5	1	1	0	40	4.0	0	3	4	2	0	1	38	3.8	0
		(3)	キャンペーンの実施	重点	①	2	4	3	1	0	37	3.7	0	2	2	6	0	0	36	3.6	0
		(4)	イベントへの出展	重点	②	0	5	2	2	1	31	3.1	0	1	1	6	1	1	30	3.0	0
		(5)	転入者への啓発強化	重点	③	1	5	3	0	1	35	3.5	0	1	4	4	0	1	34	3.4	0
		(6)	効果的な啓発活動の調査・検討	重点	⑤	0	6	1	3	0	33	3.3	0	2	2	4	2	0	34	3.4	0



【計画項目について】

計画項目			小金井市廃棄物減量等推進審議会の評価																		
6	環境教育・環境学習の推進	重点度	対応する施策	取組内容の進捗度 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)								施策の有効性 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)									
				5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	未回答	5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	未回答
				取組内容	(1) 小・中学校における環境教育の推進	重点	②	0	9	4	0	0	48	3.7	0	0	3	5	5	0	0
	(2) 町会・自治会・子供会・その他団体などへの環境学習の推進	重点	①	0	7	5	1	0	45	3.5	0	0	1	4	7	1	0	44	3.4	0	0
	(3) 情報の提供	重点	①②③	0	8	5	0	0	47	3.6	0	0	0	6	6	1	0	44	3.4	0	0
小金井市廃棄物減量等推進審議会委員からのコメント (自由記入)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「将来の世帯主となる小中学生」には、環境問題や廃棄物減量に関心を持ち、主導的に取り組む人材となってくれるよう、処理場の見学や出張授業などで、一層の啓蒙活動に注力してほしい。</li> <li>・海洋プラごみ削減や、市の野川クリーン作戦など環境学習の機会として活用してすべき。</li> <li>・近年の都市化により、また、女性のパート等により、情報提供は難しいのでは。気長に行うことだと思う。</li> <li>・(2)施策①だけでは取組内容の達成には足りないと思われる。</li> <li>・(3)市全体の収集ごみ量などは逐次広報で情報提供されているが、地区ごとの取組など提供できる情報は他にも多いと思われる。</li> <li>・高等学校、大学とのさらなる連携。ゴミ減量などの活動を、高校、大学から提案してもらう。</li> <li>・学校や地域を巻き込んでの環境活動は、もっといろいろな団体と連携して取り組む必要があると思う。</li> <li>・冊子を学校等だけではなく、出来るだけ大勢の市民に配布し、理解してもらうことが大事だと思います。</li> </ul>																			

【施策について】

Plan	Do		Check				Action							
	具体的な取組	目標	実績	30年度				Do		Check				
				施策進捗	効率性	評価理由		方向性	目標	実績	施策進捗	効率性	評価理由	方向性
① ②	広報媒体活用の充実 (チラシ、市報、市ホームページ、スマートフォン等)	—	3回	A	A	ごみ・リサイクルカレンダー表紙絵を募集した。作品の製作を通し、子ども達が「ごみ」や「リサイクル」について考えることができ、啓発を図ることができたと考えられる。また、市報特集号で「くるカメ出張講座」についての広報を行った。	推進	—	4回	—	—	計画項目5参照	—	
② ①	学習機会の提供 (出張講座、施設見学会、イベント等)	計画項目5参照 (年40回)	28回	B	A	小学校の授業への参加に加え、保育園児や一般市民を対象として出張講座を実施した。紙芝居や生ごみからできた堆肥を使用したの、野菜の収穫体験を盛り込むなど、内容を工夫し、資源循環の大切さについて啓発を図った。	推進	—	—	—	—	計画項目5参照	—	
③	冊子「暮らしの中のごみ減量」の改訂	—	発行	A	A	食品ロスや減量施策の変更点の反映等、掲載内容を更新するとともに、ごみ量数値等を書き込み式に変更することで、より長く使用できるように工夫した。学校等での出張講座の教材としても引き続き活用していく。	推進							
Action		転入者への啓発のほか、駅頭や市民まつりでキャンペーンを実施した。分別の徹底や資源の有効活用がごみの減量にも繋がることから、今後も様々な機会を利用してキャンペーンを実施していく。 また、市報・市ホームページやごみ分別アプリを活用して、分かりやすい情報提供に努めるほか、小学校への授業参加の際にも、減量キャラクターを多用するなど、大人だけではなく、子どもに対する啓発も強化していく。												

審議会委員による29年度の評価状況

【計画項目について】

計画項目			小金井市廃棄物減量等推進審議会の評価																	
6	環境教育・環境学習の推進	重点度	対応する施策	取組内容の進捗度 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)								施策の有効性 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)								
				5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	
				取組内容	(1) 小・中学校における環境教育の推進	重点	①②	1	2	4	2	0	29	3.2	1	3	1	3	2	0
	(2) 町会・自治会・子供会・その他団体などへの環境学習の推進	重点	①②	0	3	2	3	1	25	2.8	1	2	1	3	2	1	28	3.1	1	
	(3) 情報の提供	重点	①②	0	7	0	2	0	32	3.6	1	2	2	4	1	0	32	3.6	1	

【計画項目について】

計画項目		重点度	対応する施策	小金井市廃棄物減量等推進審議会の評価																	
7 地域におけるひとづくり・まちづくりの促進				取組内容の進捗度 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)								施策の有効性 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)									
				5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	未回答	5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	未回答
取組内容	(1) ごみゼロ化推進員による活動の推進	重点	②③④	0	11	1	1	0	49	3.8	0	0	1	4	6	1	1	42	3.2	0	0
	(2) ごみ相談員制度の認知度向上	重点	①	0	1	7	4	1	34	2.6	0	0	1	2	3	4	3	33	2.5	0	0
	(3) 集団回収事業の支援	重点	④	0	7	5	1	0	45	3.5	0	0	0	10	2	1	0	48	3.7	0	0
	(4) 市民・事業者・行政の連携体制の強化	重点	②	0	4	6	2	1	39	3.0	0	0	0	2	8	1	2	36	2.8	0	0
小金井市廃棄物減量等推進審議会委員からのコメント (自由記入)		<p>・日野市に焼却をお願いする上で、ごみゼロ化をこれまで以上に推進しなければ、日野市民の納得は得られない。そのことを小金井市民へ周知を徹底しなければならない。ごみゼロ化推進会議との連携で、自治会や町会への働きかけを続けて頂きたい。</p> <p>・「対応する施策」の欄に記載漏れ?⑤「地域ネットワークの構築」が見当たらない。またこの進捗が「C」であるのはなぜか?「具体的な取組」の中味を再考する必要があるのではないかと。</p> <p>・ごみ相談員の認知度向上は、昨年度の審議会委員のコメントにもある。</p> <p>・年寄りが多くなり、若者等の協力を願います。</p> <p>・本計画項目は華々しい結果を見るのは難しいが、地道で継続的な努力が重要と考える。</p> <p>・施策⑤は市民参加に重要だと思われるが、取組内容に位置づけられていない。</p> <p>・地域での盛り上がりには、欠けると感じている。3市連携の企画で活性化が図れることに期待している。</p> <p>・市民に対してのことなのでとても難しいですが、一番重要なところだと思います。これからも新たな取り組みを考えていくことが大事だと思います。</p>																			

【施策について】

Plan	Do		Check				Do		Check				Action	
具体的な取組	目標	実績	30年度				方向性	目標	実績	29年度				方向性
			施策進捗	効率性	評価理由					施策進捗	効率性	評価理由		
① ⑤ 広報媒体活用の充実 (チラシ、市報、市ホームページ、スマートフォン等)	—	1回	A	A	特集号に、ごみゼロ化推進会議講演会や、推進員募集の記事を掲載した。		推進	—	3回	—	—	計画項目5参照		—
② ① ごみゼロ化推進会議 (総会・全体会・役員会・運営委員会) の開催支援	適時実施	随時	A	A	総会を始めとした各種会議の運営支援を行い、必要な会議を随時実施した。		現状維持	適時実施	随時	A	B	総会を始めとした各種会議の運営支援を行い、必要な会議を随時実施した。		現状維持
③ ② ごみゼロ化推進員との情報交換	適時実施	随時	A	A	各部会の分野においては部会を中心に、また、ごみゼロ化推進員が個別に持つ得意分野に関しては担当者間で随時情報交換を行った。		現状維持	適時実施	随時	A	B	各部会の分野においては部会を中心に、また、ごみゼロ化推進員が個別に持つ得意分野に関しては担当者間で随時情報交換を行った。		現状維持
④ ③ 町会・自治会・子供会への働きかけ	適時実施	適時実施	B	A	ごみゼロ化啓発部会と連携し、自治会や町会をターゲットに啓発活動を行い、転入者にとってわかりにくい分別や小金井市の取り組みを紹介する機会やチラシを配布して啓発を図った。今後は町会・自治会への働きかけを強化していく。		推進	適時実施	適時実施	C	B	具体的な取組は行えなかったため、集団回収登録団体への働きかけを検討した。		推進
⑤ ④ 地域ネットワークの構築	適時実施	適時実施	C	B	地域における課題解決に向けて、市民・事業者・行政が連携体制の強化を図るため、3者が相互に協力・連携し相乗的な効果が得られるよう、随時情報交換を行った。		推進	適時実施	適時実施	C	B	集団回収登録団体をごみゼロ化推進会議の活動に取り入れるための啓発活動を検討した。		推進

Action
評価を踏まえた今後の展開及び分析

引き続き、ごみゼロ化推進会議の運営支援を行い、必要な会議を随時実施していくと共に、施設見学や講演会などを反映した啓発活動について研究・検討していく。また、ごみゼロ化啓発部会と連携し、自治会や町会に対し啓発活動を行うための資料作成やワークショップを行い、実現化に向けて準備を進めており、今後ともごみゼロ化推進会議と連携を図りつつ、市民への啓発を強化していく。

審議会委員による29年度の評価状況

【計画項目について】

計画項目		重点度	対応する施策	小金井市廃棄物減量等推進審議会の評価																	
7 地域におけるひとづくり・まちづくりの促進				取組内容の進捗度 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)								施策の有効性 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)									
				5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能		
取組内容	(1) ごみゼロ化推進員による活動の推進	重点	①②	1	6	1	1	1	35	3.5	0	0	1	2	6	0	1	32	3.2	0	0
	(2) ごみ相談員制度の認知度向上	重点	②③④⑤	0	1	4	1	4	22	2.2	0	0	1	1	4	2	2	27	2.7	0	0
	(3) 集団回収事業の支援	重点	①②③④	0	3	5	2	0	31	3.1	0	0	1	3	5	1	0	34	3.4	0	0
	(4) 市民・事業者・行政の連携体制の強化	重点	①②③④	0	1	6	1	2	26	2.6	0	0	0	5	2	2	1	31	3.1	0	0

【計画項目について】

計画項目		重点度	対応する施策	小金井市廃棄物減量等推進審議会の評価																	
8 拡大生産者責任の追及				取組内容の進捗度 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)								施策の有効性 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)									
				5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	未回答	5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	未回答
取組内容	(1) 拡大生産者責任の追及	重点	①	0	2	6	1	2	30	2.7	2	0	0	2	5	2	3	30	2.5	1	0
	(2) 事業者と行政の役割分担の見直し	重点	①	0	4	5	2	0	35	3.2	2	0	0	3	6	2	1	35	2.9	1	0
小金井市廃棄物減量等推進審議会委員からのコメント (自由記入)		<ul style="list-style-type: none"> <li>事業者が拡大生産者責任を果たしているか否かを、国や市の報告などでチェックし、市民としても関心を持ち続けていきたいと考えています。</li> <li>国へ提出した「要望書」の内容が不明。</li> <li>事業者との協働に重点を置くべきでは。</li> <li>総会時にも質問が出たと思うが、「追及」は「追求」とすべき。</li> <li>行政が先頭にたって行うべきだ。それしかないのでは。</li> <li>(2)については、都・国への働きかけだけでなく、ローカルに取り組める内容も多々あるので推進してほしい。</li> <li>ごみゼロ推進の事業所部会は実績を含めてよくやっています。もっと市も協力を！</li> <li>拡大生産者責任の追及は市が特にやることとは思いません。事業者への協力依頼はもっと別の方法がある。</li> <li>限られた人的資源・財政の中で良く取り組まれている。</li> <li>国への要望は実行されないと意味がないと思うので、市でもそれに向けた行動を行うことが大事だと思います。</li> </ul>																			

【施策について】

Plan		Do		Check				Do		Check				Action	
具体的な取組		目標	実績	30年度				目標	実績	29年度				方向性	
				施策進捗	効率性	評価理由				方向性	施策進捗	効率性	評価理由		
①	国・都への働きかけ	—	—	A	A	拡大生産者責任の追求をするためには、法整備も重要となることから、平成30年度においても、国・都に対し、市長会や全国都市清掃会議を通じて要望を提出した。		推進	—	—	A	B	平成29年度は、市長会及び全国都市清掃会議を通じて要望が提出されている。		推進

Action
評価を踏まえた今後の展開及び分析 拡大生産者責任については、様々な構成組織の要望活動を通して国・都など関係機関への対応を求めている状況にあることから、要望書を提出したところである。今後も様々な機会を捉え、有効な働きかけに積極的に参加するなどして取組んでいく。 官民連携にあたっては、業界団体との協議交渉であり、法の要請に基づく取組みになることから、各種団体を通じて効果的に求めていくとともに、市内事業者に対して自主回収の拡大等の呼びかけなどを行っていく。

審議会委員による29年度の評価状況

【計画項目について】

計画項目		重点度	対応する施策	小金井市廃棄物減量等推進審議会の評価															
8 拡大生産者責任の追及				取組内容の進捗度 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)								施策の有効性 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)							
				5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能
取組内容	(1) 拡大生産者責任の追及	重点	①	1	3	1	2	2	26	2.9	1	2	1	4	1	1	29	3.2	1
	(2) 事業者と行政の役割分担の見直し	重点	①	0	4	3	1	1	28	3.1	1	3	0	4	1	1	30	3.3	1

【計画項目について】

計画項目			小金井市廃棄物減量等推進審議会の評価																		
9	事業活動における3Rの推進	重点度	対応する施策	取組内容の進捗度 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)								施策の有効性 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)									
				5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	未回答	5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	未回答
				取組内容	(1) 事業者自らの責任による法令を遵守した適正処理の推進	重点	②	3	9	1	0	0	54	4.2	0	0	3	9	0	0	0
(2) 事業系ごみの発生抑制の推進	重点	②	0		10	3	0	0	49	3.8	0	0	2	7	4	0	0	50	3.8	0	0
(3) 事業系ごみのリユース・リサイクルの推進	重点	②	0		8	4	1	0	46	3.5	0	0	0	7	6	0	0	46	3.5	0	0
(4) 事業用大規模建築物の所有者に対する立入指導の実施	重点	②	2		8	3	0	0	51	3.9	0	0	3	6	3	1	0	50	3.8	0	0
(5) リサイクル推進協力店認定事業所の拡大	重点	①④	2		10	0	0	0	50	4.2	1	0	2	9	0	1	0	48	4.0	1	0
(6) 店頭回収の促進	重点	⑤	1		11	0	1	0	51	3.9	0	0	2	8	2	1	0	50	3.8	0	0
小金井市廃棄物減量等推進審議会委員からのコメント (自由記入)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模事業者は、自社内での取組は可能だろうが、小規模事業者が個別に取り込むことは難しいであろう。市が指導することで、数事業者が協力しあい、廃棄物の適正な分別と減量を図ることが出来ないか、検討してみても如何だろうか。</li> <li>・東小金井マルエツにトレーの回収ボックスが設置された。ごみゼロ化の方々の努力なのではないか。</li> <li>・実態不明</li> <li>・小規模事業者からのリサイクルに対応した支援や情報提供はあまりできていないのではないか。</li> <li>・(5)(6)が家庭系からのもの受入だけでなく事業者自身の3Rに結び付くのが望ましい。</li> <li>・コンビニ、ドラッグストアは業態変化で食品等の販売拡大。→コンビニ、ドラッグストアへの協力要請の強化。</li> <li>・店頭での資源回収は、随分進んでいるように見受けられる。</li> <li>・推進、実施後の事業者の結果が知りたいです。</li> </ul>																			

【施策について】

Plan	Do		Check				Action						
	具体的な取組	目標	実績	30年度				29年度					
				施策進捗	効率性	評価理由		方向性	目標	実績	施策進捗	効率性	評価理由
① ④	広報媒体活用の充実 (チラシ、市報、市ホームページ、スマートフォン等)	—	随時	A	A	リサイクル推進協力店や店舗からの寄付活動を市報に掲載するなど、事業活動における3Rの推進状況の周知を図った。	推進	—	1回	—	—	計画項目5参照	
② ①	個別指導	—	—	A	A	事業用大規模建築物の立ち入り調査を行い、廃棄物が適正に処理されるよう指導した。また、行政回収によるごみの排出に問題がある事業所に対しては、随時個別指導を実施した。	推進	—	—	A	B	事業用大規模建築物の立ち入り調査を行い、廃棄物が適正に処理されるよう指導した。また、行政回収によるごみの排出に問題がある事業所に対しては、随時個別指導を実施した。	推進
③	リサイクル推進協力店認定事業の推進	新規4事業所 (13事業所→17事業所)	新規3事業所 (12事業所→15事業所)	A	A	市内での大規模事業所の認定は概ね完了しつつあるが、懸念であったリサイクル推進協力店認定制度実施要綱の見直しを行ったことで、小・中型店舗まで広く認定をしやすくなり、ドラッグストアが1店舗新規として認定するに至った。今後は、認定店をさらに増やすべく、店舗の周知も含め、事業の啓発にも力を入れていく。	推進						
④ ②	リサイクル推進協力店認定事業所の拡大							新規4事業所 (13事業所→17事業所)	新規1事業所 (11事業所→12事業所) ※閉店・辞退により2店舗減	A	B	小・中型店舗まで広く認定できるように、リサイクル推進協力店認定制度実施要綱の見直しを進めた。また、認定店舗の目印になる看板を東京学芸大学の協力を得て、ごみ減量キャラクターを用いた親しみやすいデザインに一新した。	推進
⑤ ③	自主回収・自主処理を行う店頭回収事業所の拡大	新規2事業所 (9事業所→11事業所)	新規2事業所 (10事業所→12事業所)	A	A	新規で2事業所が登録され、ごみ・リサイクルカレンダー等で広報した。継続して既存事業所及び新規開業事業所に周知及び協力を依頼していく。	推進	新規2事業所 (9事業所→11事業所)	新規1事業所 (9事業所→10事業所)	B	A	新規で1事業所が登録された。継続して既存事業所及び新規開業事業所に周知及び協力依頼をした。	推進

Action
評価を踏まえた今後の展開及び分析 大規模事業所を中心に店頭での資源物自主回収が増えつつある。今後も引き続き協力依頼を行うとともに、新たに協力していただける事業所を開拓していく。また、分別が徹底されていない事業所が多いことから、個別指導に力を入れるとともに、廃棄物が適正に処理されるように、事業所に対しても啓発活動を強化する

審議会委員による29年度の評価状況

【計画項目について】

計画項目		重点度	対応する施策	小金井市廃棄物減量等推進審議会の評価																
				取組内容の進捗度 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)									施策の有効性 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)							
9 事業活動における3Rの推進				5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	
取組内容	(1) 事業者自らの責任による法令を遵守した適正処理の推進	重点	①	3	4	1	1	1	37	3.7	0	2	3	3	0	2	33	3.3	0	
	(2) 事業系ごみの発生抑制の推進	重点	①	4	4	1	1	0	41	4.1	0	1	6	2	1	0	37	3.7	0	
	(3) 事業系ごみのリユース・リサイクルの推進	重点	①②	0	6	4	0	0	36	3.6	0	1	5	3	1	0	36	3.6	0	
	(4) 事業用大規模建築物の所有者に対する立入指導の実施	重点	①	2	4	2	1	1	35	3.5	0	1	4	4	0	1	34	3.4	0	
	(5) リサイクル推進協力店認定事業所の拡大	重点	②	1	5	2	2	0	35	3.5	0	2	3	3	2	0	35	3.5	0	
	(6) 店頭回収の促進	重点	②④	1	4	4	1	0	35	3.5	0	3	4	3	0	0	40	4	0	

【計画項目について】

計画項目		重点度	対応する施策	小金井市廃棄物減量等推進審議会の評価																	
				取組内容の進捗度 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)									施策の有効性 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)								
				5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	未回答	5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	未回答
取組内容	(1) 小金井市施設ごみゼロ化行動計画の推進	重点	①	0	11	0	0	0	44	4.0	2	0	0	8	2	1	1	41	3.4	1	0
	(2) 進捗状況・実績報告の公表	継続	②	0	11	2	0	0	50	3.8	0	0	0	7	5	0	1	44	3.4	0	0
小金井市廃棄物減量等推進審議会委員からのコメント (自由記入)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日野市での焼却を日野市の市民に少しでも納得して頂くには、これまで以上に小金井市での廃棄物削減を進める必要がある。市役所はその取組みの総本山として、これまで以上に率先垂範し、ごみゼロ化の意義と成果をアピールしてほしい。</li> <li>・「結果公表にC-Naviを活用」とはなんでしょう？</li> <li>・「小金井市施設 ごみゼロ化行動計画(後期)」H30/4/1~H33/3/31では、減量、資源化ともに3年間で基準年度の6%増としていますが、実績がどうなっているか市のホームページでは見つけられませんでした。昨年の審議委員のコメントにも「PDCAの輪がきちんと見えるように」「公表結果がホームページで分かりません」といった同様のコメントがあります。このあたりからきちんと対応していただかないと審議会委員評価の意味がありません。猛省を。</li> <li>・市役所内1階のスペースにゴミの広報を設置すべきだ。</li> <li>・市内リサイクル推進協力店が14店舗ほどありますが、市報に掲載されただけで直ぐ忘れる。市役所1階スペースに地図で掲載した方がベストだ。</li> <li>・詳しくはわかりませんが、自己評価がAになっているので信用します。</li> <li>・小金井市に住みはじめて25年、市民、行政、企業ともゴミ減量化に対してよくやっていると評価します。ただし、今後は市民、企業、行政がもっと協同する取組みがさらに必要と考えます。特に、小金井市は学芸大学、農工大、法政など大学・研究機関が集まっているので、彼らの力をもっと活用して廃棄物等処理の先進都市にする可能性をもっていると考えます。</li> <li>・災害廃棄物処理基本計画は時間のない中での審議でしたが、ちょっと拙速だったと考えます。</li> <li>・自治会の環境衛生員長もやっております。大きな施策だけではなく、足元の実践活動が重要。例えば、民間アパートのゴミ出し等に関しては、管理会社への指導をもっと徹底させるべきと考えます。</li> <li>・小学校・中学校でのごみ減量の特別授業などももっと必要と考えます。鉄は熱い内に打つべきで、ごみ減量への取組みは暮らしや生活態度に反映する子供たちの一生の財産になります。</li> <li>・他の自治体を訪問することも多いが、小金井市は良く出来ていると思う。</li> <li>・意識改善はとても大事ですが、どこまで理解、実行してもらおうかが大事だと思います。</li> </ul>																			

【施策について】

Plan 具体的な取組	Do		Check 30年度				方向性	Do 目標	実績	Check 29年度				Action 方向性
	目標	実績	施策進捗	効率性	評価理由					施策進捗	効率性	評価理由		
① 庁内向け検査の実施及び結果公表	年1回	1回	A	B	検査及び結果公表を通じ、市施設ごみゼロ化推進リーダー及び推進員にごみの排出の現状を認識してもらい、ごみの発生抑制、再使用、再生利用の重要性を理解してもらうことができた。なお、今年度は結果公表に、C-Naviを活用することで、全職員に対して啓発を行うことができた。		推進	年1回	3月実施	A	B	市施設ごみゼロ化推進リーダー及び推進員にごみの排出の現状を認識してもらい、ごみの発生抑制、再使用、再生利用の重要性を理解してもらう。		推進
② 市職員に対する啓発	—	2月実施	A	B	庁内向け検査を11月に実施し、2月に各施設ごとに推進部会を開催した。検査の実施(一部部署)及び結果を全庁的に公表することにより、全職員に対し意識改善の働きかけを行うことができた。また、各推進部会を開催し、来年度のごみゼロ化行動実施計画を策定することにより、減量及び資源化の目標が明確になった。		推進	—	2月実施	A	B	市施設ごみゼロ化推進会議において市施設ごみゼロ化行動基本計画(後期)を策定した。各施設ごとに推進会議を開催することでごみゼロ化推進リーダー及び推進員を通じて市職員の啓発を図る。		推進

Action	市施設のごみゼロ化に向けた取組みについては、市報・市ホームページでの公表を実施することで、自ら率先して取組む姿勢を明確にし、市全体の更なるごみ減量に資することを目的としている。平成28年度から庁内向け検査で市施設ごみゼロ化行動推進リーダー及び推進員が担当するフロアなどから排出されたごみ及び資源物を確認し、不適切な分別の是正等を自ら体験する機会を設けており、今年度も同様に実施した。今後も庁内向け検査の結果公表や、市施設ごみゼロ化行動推進部会の開催を通じて、市職員への更なる啓発を図る。
評価を踏まえた今後の展開及び分析	

審議会委員による29年度の評価状況

【計画項目について】

計画項目		重点度	対応する施策	小金井市廃棄物減量等推進審議会の評価																	
				取組内容の進捗度 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)									施策の有効性 (分布件数・合計点・平均点・不能件数)								
				5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能	5	4	3	2	1	合計	平均	評価不能		
取組内容	(1) 小金井市施設ごみゼロ化行動計画の推進	重点	①	3	4	1	1	0	36	4	1	2	4	3	1	0	37	3.7	0		
	(2) 進捗状況・実績報告の公表	継続	①②	2	6	1	1	0	39	3.9	0	2	4	4	0	0	38	3.8	0		

(差替え用)

## 1 ごみ処理計画

(単位：t)

分別区分		処理方法		平成30年度 計画処理量	平成31年度 計画処理量	
可燃系 ごみ	燃やす ごみ	焼 却		12,368	12,356	
		家庭系		12,022	12,014	
		事業系		346	342	
	粗大ごみ (可燃系)	木質系粗大ごみをサーマルリサイクル* <sup>1</sup>		128	127	
		布団をサーマルリサイクル又は焼却		52	51	
小 計				12,548	12,534	
不燃系 ごみ	燃やさない ごみ	破 碎 ・ 選 別	資源化	鉄など金属を資源化	382	378
			資源化	燃やさないごみ、粗大ごみ(不燃系)を破碎後、選別した廃プラスチック類などをケミカルリサイクル* <sup>2</sup>	1,094	1,082
			資源化	小型家電回収* <sup>3</sup>	199	197
	粗大ごみ (不燃系)	破 碎 ・ 選 別	燃やさないごみ、粗大ごみ(不燃系)を破碎後、選別した廃プラスチック類などをサーマルリサイクル		713	705
			小 計		4,496	4,448
	プラスチック ごみ	選 別	資源化	プラスチック製容器包装については、容器包装リサイクル法に基づく資源化	1,714	1,696
			資源化	廃プラスチック類をケミカルリサイクル又は焼却	394	390
小 計				4,496	4,448	
有害ごみ	資源化・一部埋立		38	38		
資源物	資源化		9,647	9,547		
合 計				26,729	26,567	

※平成31年度計画処理量の算出方法は以下のとおりです。

平成30年度計画処理量×原単位増減率(平成31年度減量目標\*<sup>4</sup>/平成30年度減量目標)

基本計画及び当該年度減量目標との整合を図り、ごみ・資源物として市の収集(回収)及び集団回収で回収するもの並びに市長の指定した場所などへ搬入する事業系ごみが、全てそれぞれ焼却又は資源化など処理されるものとして算出しました。

※平成31年度人口(推定):122,362人(参考:平成30年度人口(10月1日現在):121,167人)

\*1:サーマルリサイクルとは、単に焼却するだけでなく、焼却の際に発生する熱エネルギーを回収・利用することをいう。

\*2:ケミカルリサイクルとは、ガス化溶融等により化学原料としてリサイクルすることをいう。

\*3:小型家電回収とは、不燃系ごみのうち、使用済小型電子機器等を、選別して抜き取り、小型家電リサイクル法に基づき、国が認定した事業者へ搬入する運搬業者に売却し、アルミ、貴金属、レアメタル等の再資源化を促進することをいう。

\*4:平成31年度減量目標は、P12に記載

(差替え用)

プラスチック ごみ	積替・ 選別 (委託)	容器包装リサイクル法対象の廃プラスチック	民間処理施設	容器包装リサイクル法対象の廃プラスチックを公益財団法人日本容器包装リサイクル協会（以下、「容器包装リサイクル協会」という。）に引き渡し資源化
		容器包装リサイクル法対象外の廃プラスチック		容器包装リサイクル法対象外の廃プラスチックをケミカルリサイクル(民間処理施設)又は焼却後エコセメント化(一部事務組合)
粗大ごみ (可燃系)	破碎 (委託)	木質家具などは板状に分解(ふとんは焼却処理)	中間処理場	木質家具などをサーマルリサイクル(民間処理施設)
				ふとんをサーマルリサイクル(民間処理施設)又は焼却後エコセメント化(一部事務組合)
				再使用可能なものを販売(リサイクル事業所)
粗大ごみ (不燃系)	選別・ プレス (委託)	保管庫など大部分が金属のもの	中間処理場	自転車・保管庫など大部分が金属のものを資源化(民間処理施設)
	破碎・ 選別 (委託)	上記以外の複合素材・金属・破碎後のプラスチック類など		鉄・アルミなど金属を資源化(民間処理施設)
				破碎後のプラスチック類などをケミカルリサイクル(民間処理施設)
				破碎後のプラスチック類などをサーマルリサイクル(民間処理施設)
		再使用可能なものを販売(リサイクル事業所)		
有害ごみ	破碎・選別(委託)		中間処理場	資源化・一部埋立(民間処理施設)
びん	破碎・選別(委託)		民間処理施設	資源化(民間処理施設)
スプレー缶	選別・破碎(委託)		中間処理場	資源化(民間処理施設)
空き缶	選別・プレス(委託)		空缶・古紙等処理場	資源化(民間処理施設)
金属	選別(委託)		空缶・古紙等処理場	資源化(民間処理施設)
ペットボトル	選別・プレス(委託)		空缶・古紙等処理場	一部を容器包装リサイクル協会に引き渡し資源化
				一部を民間処理施設で資源化
古紙				資源化(民間処理施設)
布	選別(委託)		空缶・古紙等処理場	資源化(民間処理施設)
枝木・雑草類・ 落ち葉	選別(委託)		民間処理施設	資源化(民間処理施設)
乾燥生ごみ				堆肥化(委託)
トレイ	選別(委託)		民間処理施設	資源化(民間処理施設)
ペットボトル キャップ				NPO法人に寄付し資源化
くつ・ かばん類	選別(直営)		空缶・古紙等処理場	資源化(民間処理施設)
難再生古紙	選別(委託)		民間処理施設	資源化(民間処理施設)



別紙 平成31年度一般廃棄物処理計画 ごみ処理フロー図

